こまえ
図書館だより

平成 29 年(2017 年)2 月
通巻第 64 号

－今号のトピックス－

◆利用支援サービス
- 講演会のお知らせ
- マルチメディア DAISY
- 音訳協力員の取組み
- DAISY をかりるには

図書館ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ https://www.library.komae.tokyo.jp/

心のバリアフリーをめざして

広がり深まる「布の絵本」の世界

「バリアフリー」という言葉から皆さんは何を連想しますか？「段差のない平らなフロア」や「多目的トイレ」などの物理的なバリアフリーを思いつく方が多いのではないでしょうか。バリアフリーとは、障がいのある方にとって、物理的、制度的、文化・情報面（点字や手話などの不備）、意識上（偏見や先入観）の障壁（バリア）が取り除かれた状態をいいます。利用支援サービスでは、図書館に来ることがむずかしい方、印刷物を読むことがむずかしい方に読書支援を行っています。このサービスを広く市民の方に知っていただこうと毎年さまざまなテーマで講演会を開催しています。

【講演会】

講師　渡辺 順子さん
（東京布の絵本連絡会 代表）

日時：平成 29 年３月５日（日）
14：00～16：00
※開場受付は 13:30 から

会場：狛江市防災センター４階会議室

申込：来館または電話

定員：先着 65 名

講師の渡辺順子さんは布の絵本の活動を通じて、障がいのある子やその保護者が図書館の利用しづらさを感じるのは、「心のバリア（障壁）」があるからだと気づいたそうです。「心のバリアフリー」の実現についていっしょに考えてみませんか？

**目の部分がボタンなので、
ボタンをかけると目を覚まし
はずすとスヤスヤ眠っている
ように見えます。**

「おやすみおはよう」

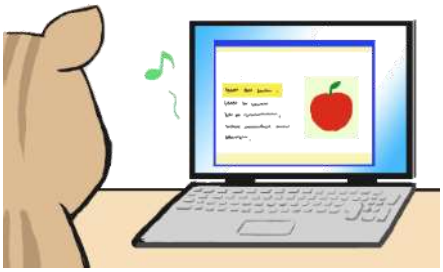
「いくつ？2」

楽しく数字あそびしよう！

～みんなの読書を応援します！利用支援サービス～

マルチメディアDAISY（デイジー）ってなあに？

DAISY（デイジー）とは、資料の文字や図表を音声で読み上げ、見出しや章・ページごとに移動できるようにデジタル化した録音資料の一種です。Digital Accessible Information System の略で、日本語では「アクセシブルな情報システム」と訳されています。音声のみの DAISY を「音声 DAISY」、音声と文字を「テキスト DAISY」、音声と文字と画像を「マルチメディア DAISY」と呼んで区別しています。



「てんぐのかくれみの」をパソコンで再生した様子

マルチメディア DAISY は、デジタル化した画像と文字に、音声をシンクロ（同期）させて読むことができるシステムです。再生には専用ソフトをインストールしたパソコンなどを使います。音声を聞きながらハイライトされた文字を読み、同じ画面上で画像をみることができます。文字の大きさや色、背景の色、音声の速度調整も好みで変更ができます。

昨年末、公益財団法人伊藤忠記念財団より『わいわい文庫 マルチメディア DAISY 図書 2016』の寄贈をしていただきました。

所蔵タイトルリスト
『わいわい文庫マルチメディア DAISY 図書 2016』

「耳」で楽しむ読書を支える
音訳協力員の取組み

狛江朗読ボランティアグループ

中央図書館の開館当時から録音資料を製作し、対面朗読を担当する音訳者が多数所属しているグループです。昭和５２年の発足以来、市役所発行の広報紙等の音訳にもボランティアとして携わっています。当初はカセットテープに録音し提供していましたが、現在はデジタル録音（パソコンを使った録音方式）に変わっています。

視覚に障がいのある方にわかりやすく正確な情報を伝えるため、文字だけではなく、写真やグラフ、イラストなどを言葉で表現することも音訳の大切な技術です。そのために毎月２回勉強会を開き、研さんを積んでいます。活動日は毎月第１、第３水曜日１０時から正午までです。音訳ボランティアに興味・関心・意欲のある方、勉強会に参加できる方、いつでも見学入会歓迎です。

音訳いれぶん

狛江市立図書館主催の音訳者養成講座の受講生１１名で平成２４年に立ち上げた音訳ボランティアグループです。現在人数は少し減ってしまいましたが、メンバー仲良く和気あいあいと活動しています。図書館の録音資料の作成や対面朗読以外にも社会福祉協議会からの依頼で音訳もしています。あいとぴあセンターなどの市内施設で月１回の定例会（勉強会・連絡会）を行っています。音訳の世界は奥深く、古い言葉や外国語の読み・意味を調べ音訳することは時に非常に困難な作業です。しかし音訳資料ができたときには他では味わうことができない達成感を得ることができます。様々な資料を声で読み上げる音訳を通じて、地域社会に少しでも役に立ちたいと願って活動しています。

DAISY（デイジー）をかりるには

図書館の利用登録と利用支援サービスの登録が必要になります。またご本人が来館できない場合は、代理の方による登録もできます。利用支援サービス担当までお気軽にご相談ください。

平成 28 年４月に施行された「障害者差別解消法」では、障がいのある方もない方も、互いにその方らしさを認め合いながら、共に生きる社会をつくることを目指しています。DAISY が普及することでひとりでも多くの方が読書を楽しめ、たくさんの情報を得やすくなる環境を整えていきたいと考えています。

DAISY 再生機の購入をきっかけに
図書館から DAISY を借りはじめた方が
いらっしゃいます。それまで読書から
遠ざかった生活をされていたのが一転し、
月に数冊読んでしまうくらい読書の楽しみを
再発見したとおっしゃっています。
ご友人にすすめられた本の DAISY を聞いて、
本の話題で盛り上がることもあるそうです。

ベストリーダー2016

2016年1月から12月の1年間に、市内の図書館・図書室で貸出の多かった本のベストテンです。

一般書

1位	**火花**	又吉 直樹／著　文藝春秋　913.6ﾏ
2位	**サラバ！　上・下**	西　加奈子／著　小学館　913.6ﾆ
3位	**あの家に暮らす四人の女**	三浦 しをん／著　中央公論新社　913.6ﾐ
4位	**ラプラスの魔女**	東野 圭吾／著　KADOKAWA　913.6ﾋ
5位	**人魚の眠る家**	東野 圭吾／著　幻冬舎　913.6ﾋ
6位	**羊と鋼の森**	宮下 奈都／著　文藝春秋　913.6ﾐ
7位	**フランス人は10着しか服を持たない**	ｼﾞｪﾆﾌｧｰ･L.ｽｺｯﾄ／著　大和書房　590ｽ
8位	**虚ろな十字架**	東野　圭吾／著　光文社　913.6ﾋ
9位	**悲嘆の門　上・下**	宮部 みゆき／著　毎日新聞社　913.6ﾐ
10位	**坂の途中の家**	角田 光代／著　朝日新聞出版　913.6ｶ

児童書

1位	**おばけのてんぷら**	せな けいこ／作・絵　ポプラ社　E
2位	**ぐりとぐら**	中川 李枝子/さく　福音館書店　E
3位	**鹿の王　上・下**	上橋 菜穂子／著　KADOKAWA　913ｳ
4位	**としょかんライオン**	ミシェル・ヌードセン／さく　岩崎書店　E
5位	**おばけでんしゃ**	内田 麟太郎／文　童心社　E
6位	**かいけつゾロリのクイズ王**	原 ゆたか／さく・え　ポプラ社　913ﾊ
7位	**14ひきのあさごはん**	いわむら かずお／作　童心社　E
8位	**ぐりとぐらの1ねんかん**	中川 李枝子/さく　福音館書店　E
8位	**しろくまちゃんのほっとけーき**	わかやま けん／[え]　こぐま社　E
10位	**バムとケロのおかいもの**	島田 ゆか／作・絵　文溪堂　E

いかがでしょうか。一般書部門では、受賞作品が半数を占めています。『火花』芥川賞、『サラバ！』直木賞、『あの家に暮らす四人の女』織田作之助賞、『羊と鋼の森』本屋大賞、『流』直木賞。ちなみに児童書部門の『鹿の王』は本屋大賞と日本医療小説賞を受賞しています。そんな中、３作品ランクインしている東野圭吾は相変わらずパワフルに質の高い作品を生み出し続けていますね。そういえば、時代小説（佐伯泰英、稲葉稔、鳥羽亮など）の文庫本のシリーズものは、とても回転良く借りられていますが、ランクインしていません。98位に佐伯泰英の『姉と弟（新・酔いどれ小籐次４）』がようやく入っています。すごいスピードで新刊を出すので１冊あたりの貸出回数が多くならないのでしょうか。

私の好きな本

秋の読書週間 2016

「**POP** 募集」に寄せられた作品の一部をご紹介！

from 奥田さん

『何者』
朝井リョウ/著　新潮社

from リタさん

『六番目のサヨコ』
恩田陸/著　新潮社（新潮文庫）

from 長島さん

『天と地の方程式』
富安陽子/著　五十嵐大介/画
講談社

土曜日も開催！
ようこそ おはなし会へ

2月18日
午前11時から
2～6歳向け
※3歳以下は保護者同伴
おはなしのへや

今年もおたのしみ！
藤田さんの登場です

おはなしおばさんの玉手箱
藤田浩子さんのおはなし会

3月25日 午前11時から

2～5歳向け ※3歳以下は保護者同伴
市民センター（地下） 視聴覚室

事前申込み制 2/16 受付開始！

「第三次狛江市子ども読書活動推進計画」素案にご意見をお寄せください！

教育委員会では、「第三次狛江市子ども読書活動推進計画」の策定に向けて検討してきました。このたび、計画の素案がまとまりましたので公表し、広く皆さんのご意見を反映させるため、パブリックコメントを実施しています。

素案は、中央図書館内で閲覧できる他、市ホームページからもご覧になれます。また、市民説明会を開催します。学校司書によるアニマシオンやおはなしグループによる語りの実演など、市内の子ども読書活動の実践報告も予定しておりますので、ぜひご参加ください。

■パブリックコメント（意見募集）

募集対象：市内在住・在学・在勤の方

提出方法：３月２日（木）までに、住所・氏名を記入の上、
図書館窓口へご提出ください

※郵送・電子メール（kodomo-keikaku@city.komae.lg.jp）も受付可

■市民説明会

開催日時：【第１回】２月１２日（日）午後２時から
【第２回】２月１６日（木）午後７時から

開催場所：市役所４階・特別会議室

聞かせて狛江の昔むかし
筏（いかだ）

井上 孝／著（狛江市文化財専門委員）

多摩川の筏流しは元禄時代（1688～1703）にはすでに行われていたようで、上野寛永寺の修理のために、奥多摩町海沢から御用木を筏に組んで運んだという記録がある。

筏流しの背景には、徳川家康が江戸を政治の中心としたため人口が急激に増加したことと、たびたび繰り返される大火のために木材を必要としたことがあげられる。そこで近くて運びやすい多摩川や荒川上流の木材を筏に組んで運ぶようになった。

奥多摩の材木は「きのう山さげ　今日青梅さげ　明日は羽村の堰落とし」と筏流し唄で歌われているように、切り出したところから青梅までは流れが速いので管流しといって一本ずつ印をつけて流す。青梅付近で筏に組んで羽村堰までは筏１枚に乗子２人で、それから下流は川幅が広く流れも緩やかなので２～３枚の筏をつなげて乗子１人でゆうゆうと川下りをした。

筏は丸太で流す場合と角材にして流す場合があったが、ともに幅は前が６尺、後ろが 10 尺（堰につくられた筏通しの関係で制限があった）長さは 10 間（60 尺）が古くからの形式だったが特に制限はなかった。そして、筏を組むには藤蔓を使った。大正頃には針金になったが針金は弾力性がなく切れやすかった。

日数は上流から八幡塚（現西六郷）まで標準６日間といわれていたが、流れや途中の状況で４～５日のこともあれば、２週間かかることもあった。夜は流域の旅館で泊まるのである。なにしろ季節による水量の変化、流域の村々の川の利用の仕方によって変わるのである。

服装は、比較的新しい時代のものであるが、印半纏に麻の股引、紺の脚絆、草鞋履きで、長い杉竿を持っていた。また筏乗りは危険が多い激しい仕事だから 18 歳くらいから 50 歳前くらいの人があたっていた。

筏の上には、杉皮、貫、平板、木炭、河原の石（中流部の平たい石で、建物の土台や漬物石にする）などを乗せて運び、利益を得ていた。

筏流しの障害は何といっても羽村堰（玉川上水の取入口）で、突然筏の通行を禁止したり、筏をばらばらにして堰の下まで河原を運べという命令を出す。わずか４間しかない筏通しを作ってそこしか通さない。水量の関係で 11 月から４月までは毎月６日間（５日間隔で）正午から１時までしか通さなかったこともあった。時間に遅れれば５日間そこにいなければならないのである。

そのほか、運上金（幕府に収める税金）を取られることもあったし、田植えが近づくと水が少なくなるから水位をあげるために堰が閉じられて筏が通れなくなる。川筋の施設を壊して修理代を払わされることもあった。

河口の近くで上げ潮になり、筏が進まなくなるのも困ることの一つだった。

そのようにして八幡塚に着くと筏を江戸の商人に引渡し、竿だけ持って奥多摩の我が家に帰るのだった。その道を筏道といい、狛江市内にも３本のルートがあった。

筏流しは、鉄道の開通や道路の改修が進んだ大正時代の終わりごろまで続いた。

２月の行事といえば、まず節分の豆まき、恵方巻きが思い浮かびます。

しかし、初午(はつうま)の「稲荷詣で(いなりもうで)」も大きな行事です。２ 月最初の午の日を初午といい、昔から稲荷詣でをする風習があります。そもそも稲荷神社とは、稲荷神をまつる神社のことで、稲荷(いなり)は、稲生(いねなり)が縮まったもので、お稲荷様の『使い』が狐といわれています。

さて、気になる 2017 年の初午は２月 12 日(日)です。この日は稲荷神社へ参拝、厄払いするだけでなく、稲荷信仰のある家庭では神棚に御神酒、油揚げ、いなり寿司、初午団子などをお供えするそうです。２月は、豆、恵方巻、いなり寿司を食べて、日本の行事を味わいましょう。

〈編集･発行〉平成 29 年２月３日発行　狛江市立中央図書館　和泉本町 1-1-5　TEL 03-3488-4414

※図書館だよりは音訳版もあります。ご希望の方は中央図書館にお問い合わせください。